第Ⅲ章 いろいろな「識字」 識字率

<table>
<thead>
<tr>
<th>著者</th>
<th>野上 裕生</th>
</tr>
</thead>
</table>
| 権利   | 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所
|        | に帰属する © 識字率 2013
|        | リストックは禁止されます |
| シリーズタイトル | アジアを見る眼 |
| シリーズ番号 | 33-38 |
| 雑誌名   | すぐに役立つ開発指標のはなし |
| ページ   | 2013 |
| 発行年   | 2013 |
| 出版者   | 日本貿易振興機構アジア経済研究所 |
| URL     | http://hdl.handle.net/2344/00017472 |
第4章 いろいろな「識字」—— 識字率

社会開発の重要なテーマのひとつに成人識字教育がある。成人識字教育は、経済的な理由などで初等教育の機会をもってなかったことによって、生活上必要な最低限度の読み書きができない成人を対象にするものである。

一九四六年に創設されたUNESCOは、初等教育の促進と識字率の向上を活動の中心にしてきた。タイのジョム・チィエンでの世界教育会議（一九七〇年の二〇〇年）にはセネガルのダカールで「万人のための世界教育フォーラム」が開催されたが、そこでは目標のひとつとして「二〇一五年までに成人識字率を五〇パーセント改善し、基礎教育などへの全成人のアクセスを確保すること」などが合意された。

成人識字教育は、非識字者や未就学児の意識を高めることで人権実現への入口、あるいは
第4章 いろいろな「識字」―識字率

開発途上国における識字率（2004年、％）

<table>
<thead>
<tr>
<th>国名</th>
<th>女性識字成績</th>
<th>男性識字成績</th>
<th>成人識字成績</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>女性人率</td>
<td>男性人率</td>
<td>女性人率</td>
</tr>
<tr>
<td>中国</td>
<td>86.5</td>
<td>95.1</td>
<td>91</td>
</tr>
<tr>
<td>エジプト</td>
<td>59.4</td>
<td>83.0</td>
<td>71</td>
</tr>
<tr>
<td>モロッコ</td>
<td>39.6</td>
<td>65.7</td>
<td>60</td>
</tr>
<tr>
<td>インド</td>
<td>47.8</td>
<td>73.4</td>
<td>65</td>
</tr>
<tr>
<td>バキスタン</td>
<td>36.0</td>
<td>63.0</td>
<td>57</td>
</tr>
<tr>
<td>ネパール</td>
<td>34.9</td>
<td>62.7</td>
<td>56</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）成人識字率は15歳以上、若年識字率は15歳以上24歳以下の人口が対象である。
表2 先進国の識字率（1995年、%）

<table>
<thead>
<tr>
<th>国名</th>
<th>成人識字率</th>
<th>機能的非識字者の割合</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>カナダ</td>
<td>99.0</td>
<td>16.6</td>
</tr>
<tr>
<td>フランス</td>
<td>99.0</td>
<td>16.8</td>
</tr>
<tr>
<td>ノルウェー</td>
<td>99.0</td>
<td>16.8</td>
</tr>
<tr>
<td>アメリカ</td>
<td>99.0</td>
<td>20.7</td>
</tr>
<tr>
<td>フィンランド</td>
<td>99.0</td>
<td>16.8</td>
</tr>
<tr>
<td>オランダ</td>
<td>99.0</td>
<td>10.5</td>
</tr>
<tr>
<td>日本</td>
<td>99.0</td>
<td>16.8</td>
</tr>
<tr>
<td>ニュージーランド</td>
<td>99.0</td>
<td>18.4</td>
</tr>
<tr>
<td>デンマーク</td>
<td>99.0</td>
<td>16.8</td>
</tr>
<tr>
<td>ベルギー</td>
<td>99.0</td>
<td>18.4</td>
</tr>
<tr>
<td>イギリス</td>
<td>99.0</td>
<td>21.8</td>
</tr>
<tr>
<td>オーストラリア</td>
<td>99.0</td>
<td>17.0</td>
</tr>
<tr>
<td>スイス</td>
<td>99.0</td>
<td>18.9</td>
</tr>
<tr>
<td>アイルランド</td>
<td>99.0</td>
<td>22.6</td>
</tr>
<tr>
<td>ドイツ</td>
<td>99.0</td>
<td>14.4</td>
</tr>
<tr>
<td>イタリア</td>
<td>98.1</td>
<td>16.8</td>
</tr>
<tr>
<td>スペイン</td>
<td>97.1</td>
<td>16.8</td>
</tr>
<tr>
<td>スウェーデン</td>
<td>99.0</td>
<td>7.5</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（出所）国連開発計画（1998）164および222ページ。

生活で制約を受けています。そこでOECDが主導して、国際成人識字能力調査がおこなわれてきました。これは、識字能力を文章読解能力、資料読解能力、数値読解能力の三つの領域について五段階評価をしたものである。ここでは日常生活に必要とされるのはレベル3以上である。表2は一九九〇年代半ばの先進国の識字率をみたものである。表2は一九九〇年代半ばの先進国の識字率をみたものである。先進国の識字率は九九パーセント近い水準に達しているが、日常生活に支障のない程度の識字能力のない『機能的非識字者』もかなりの人が該当することがわかる。家計のなかに識字者がいる場合には、同じ家計のなかにいる非識字者が情報を得る時、ある仕事をする時に手助けできる。つまり、識字者と同居している非識字者は完全な非識字という
基礎教育を中心に\(NGO\)の視点（佐藤
寛十アジア経済研究所開発スクール編）テキスト社会開発・貧困削減への

<table>
<thead>
<tr>
<th>基本公式</th>
<th>実効識字率（ELR）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>( ELR = R + aP )</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

\( ELR \) は実効識字率、\( R \) は識字率、\( P \) は「近似的な非識字者」の人口比率、\( a \) は「近似的な非識字者」が面する識字率に助けられで獲得できる情報処理能力で \( 0 \) と \( 1 \) の間の数である。\( I = 1 - R - P \) は「孤立した非識字者」（isolated illiteracy）である。

Box 1.2